

Immediate Press Release 2011.6.23

家の外の都市の中の家

house inside city outside house

Tokyo Metabolizing

第12回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展帰国展

謹啓 深緑の折、皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は東京オペラシティ アートギャラリーの展覧会活動に対してご高配、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当館では2011年7月16日[土]より10月2日[日]まで、「家の外の都市の中の家 Tokyo Metabolizing」を開催いたします。

密集した家々の間に建つ建築家夫婦の住居兼オフィス。敷地に積み木を点在させたかのような集合住宅。隣人の気配をかすかに感じる開放的な住宅ユニットの連なり。

世界的に活躍する日本の建築家3組[アトリエ・ワン、西沢立衛、北山恒]が考えた「家」は、いずれも東京という都市の中に計画され、敷地と周辺条件をふまえて、まわりと関係をつくらうとする建築です。ひとたびドアを開めると孤立しがちな大都市の中で、個を保ちながらも都市とつながりを持つことは可能なのでしょうか。

東京という都市は、ヨーロッパの街並みに見られるような連続する建物でつくられた都市ではなく、ひとつひとつ独立した建物の集合体として構成されています。都市の小さなパーツともいえる建物が、それぞれに建て替えをくり返して変化する都市の体系は、1960年に発信された日本発の建築理念・メタボリズムが提唱した「新陳代謝しながら変化し成長する建築／都市」を体現しているともいえるでしょう。

このような都市・東京では、資本権力のアイコンとしての建築が主役の一方でありながら、「住宅」という生活を主体とした静かな要素の集まりが壮大な都市の変化を生み出しています。第12回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館で行われた「Tokyo Metabolizing」の帰国展となる本展では、アトリエ・ワンの〈ハウス&アトリエ・ワン〉、西沢立衛の〈森山邸〉を実物の約1/2サイズという身体的なスケールで制作するとともに、東京展独自の企画としてコミッショナー・北山恒の〈祐天寺の連結住棟〉が加わり、つながりを誘う新しい建築を紹介します。また、変化を続ける東京という都市の行方を指し示す〈あたらしい都市のインデックス〉の展示も加わります。本展は、私たちの生活するこの東京の中で、ともに生きるための「家」のかたちを考える機会となることでしょう。

つきましては「家の外の都市の中の家」を貴誌上で是非ご紹介頂きたく、周知・告知活動にご協力賜りますようお願い申し上げます。

謹白

つながる家、つながる人、考えるのはこれからの東京、そして「人間のための都市」。

〔展示内容〕

東京という都市は、ヨーロッパの都市に見られるような連続壁体でつくられる都市構造ではなく、ひとつひとつ独立した建物（グレイン＝粒）の集合体として構成されています。つまり、建物ごとに容易に変容が行われるようなシステムが内在しているのです。絶え間ない変化を続ける都市・東京は、「新しい建築」を生み出す孵化装置であるといえるでしょう。

2008年の資本主義経済の大きなクラッシュの後、資本権力のアイコンとしての建築が都市の主役から退場し、住宅という生活を支える建築のあり方が問われています。本展では、20世紀に展開した商業建築の林立とは異なる、生活を主体とした静かな都市要素の集積が、壮大な都市の変化を導いている状況に注目します。展示室では、こうした変化の中で新しい指針となる住宅の形式3例を紹介します。



〈第12回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館 展示風景〉2010  
写真提供：国際交流基金 photo: Andrea Sarti/CAST1466

アトリエ・ワン 〈ハウス&アトリエ・ワン〉 2005年 展示：45/100 (約 1/2) 模型

建築家夫妻の住居兼オフィス。家族2人とスタッフという「拡大された家族」が、住まいと仕事場の混在する建物の中で共に生活しています。プライベートな住居部分とパブリックな性格のオフィスをひとつの建物に収めるだけでなく混ざり合うようにすることで、この建築はそれ自身が「職住混在する新しい都市建築」の様相を見せています。また、バルコニーや屋上などの半外部空間を作ったり、隣家の壁面に対して大きな窓を設けるなど、外部から内部へ、また内部から周辺へと意識が向けられるような工夫がされており、近隣との関係性を強く求める建築となっています。



アトリエ・ワン  
〈ハウス&アトリエ・ワン〉 2005  
© アトリエ・ワン

西沢立衛 〈森山邸〉 2005 年  
展示：1/2 模型

オーナー住居とワンルーム住居がひとつの敷地の中に分散して建てられた集合住宅。各住戸が積み木を散らすかのように配置され、独立した建物の間には路地とも小さな庭ともいえる屋外空間が生まれます。ひとつのユニットは1人ないし2人で使う小さなヴォリュームで、家族未滿の6世帯が共同して「拡張された家族」のような関係を創り出しています。敷地の境界が塀などで仕切られていないため、周辺の住民も敷地内の路地を行き交うなど、近隣に対しておおらかに開かれた建築です。



西沢立衛 〈森山邸〉 2005  
© 西沢立衛建築設計事務所



北山恒 〈祐天寺の連結住棟〉 2010  
© architecture WORKSHOP  
photo: 阿野太一

北山恒 〈祐天寺の連結住棟〉 2010 年  
展示：1/20 模型

木造住宅の建ち並ぶエリアに建てられた46戸の民間分譲集合住宅。敷地の中央には開放的なガラス張りのヴォリュームを3棟配置し、敷地の境界側には周辺の建物に対応するように閉じた棟を配しています。敷地内には、周辺の木造密集地と連続するような複雑な屋外空間が生まれています。住戸ユニットは、透明な棟と閉じた棟を連結バルコニーでつなぎ、離れを持つような構成になっています。中庭に面した住戸は隣人の気配を感じさせるものになっており、このような住戸間の関係性によって、共同体を誘導することが意図されています。

「あたらしい都市のためのインデックス」

会場のコリドール部分は、私たちの生活する都市・東京の未来を、ポジティブに考えるための展示です。東日本大震災による圧倒的な破壊を前にして、私たちは20世紀に開発された効率化と大量生産が生んだ都市空間が必ずしも最良のものではないことに気付いています。市場経済の拡大と共に発展してきた都市に合わせ、人びとの生活スタイルも更新を余儀なくされましたが、人口の集中とは逆にコミュニティが衰弱し、整備され尽くした巨大インフラに依存する、都市の脆弱さも露わになったと言えるでしょう。まずは都市の最も小さな単位である住宅に目を向けて、その潜在的な可能性を見出すためにさまざまな切り口で再確認した都市の姿を、データで示します。東京が「人間のための都市」に変容していくために、今なにが必要なのでしょう。都市から生まれる人とのつながり、新しいコミュニティのかたちを考えます。



〈第12回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館 展示風景〉 2010  
写真提供：国際交流基金 photo: Andrea Sarti/CAST1466

## 〔関連企画〕

「ゲストトーク・サイクル」

8/11 (木) 内藤廣×北山恒  
8/14 (日) 山本理顕×北山恒  
8/28 (日) 北山恒×西沢立衛  
9/4 (日) \* 柳澤田実×塚本由晴 (アトリエ・ワン)  
9/6 (火) 大野秀敏×北山恒  
9/18 (日) 西郷真理子×貝島桃代 (アトリエ・ワン)  
9/15 (木) 陣内秀信×北山恒

時間…………… \* 9/4 以外は 19:15 から。9/4 は 9:30 から。

会場…………… 東京オペラシティ アートギャラリー

定員…………… 70 名 [全席自由 / 展示室内の床にお座り頂きます / 要予約]

料金…………… 当日の入場券が必要です。展示の観覧は通常開館時間内のみ。

\* 申し込み方法は決まり次第ホームページでご案内致します東京オペラシティ アートギャラリー。http://www.operacity.jp/ag/

\* 就学前のお子様の同伴・ご入場はご遠慮下さい。

\* 日時およびゲストは変更になる可能性があります。最新情報はウェブサイトでご案内致します。

## 〔開催概要〕

展覧会名： 家の外の都市の中の家

会期： 2011年 7月 16日 [土] — 10月 2日 [日]

会場： 東京オペラシティ アートギャラリー

開館時間： 11:00 — 19:00 (金・土は 20:00 まで / 最終入場は閉館の 30 分前まで)

\* 諸事情により開館時間の変更および臨時休館の可能性がございます。最新情報はウェブサイトでご案内致します。

休館日： 月曜日 (祝日の場合は翌火曜日)、8月 7日 [日・全館休館日]

入場料： 一般 1,000(800) 円 / 大・高生 800(600) 円 / 中・小生 600(400) 円

\* 同時開催「収蔵品展 038 保田井智之 長円の夜」「project N 46 石井亨」の入場料を含みます。

\* 収蔵品展入場券 200 円 (各種割引無し) もあり。

( ) 内は 15 名以上の団体料金。その他、閉館の 1 時間前より半額、65 歳以上半額。土・日・祝日の中・小生無料。

\* 障害者手帳をお持ちの方および付添 1 名は無料。割引の併用および入場料の払い戻しはできません。

\* 東京オペラシティ街区の夏祭り「アーツシャワー」(7/22 [金] — 8/6 [土]) 期間を含む夏休み中 (7/16 [土] — 8/31 [日]) は中学生、小学生の入館は無料。

お問合せ： 03-5353-0756 ウェブサイト URL : http://www.operacity.jp/ag/

主催： (公財) 東京オペラシティ文化財団

特別協賛： NTT 都市開発 (株) 協賛 : (株) 大林組

特別協力： 国際交流基金 協力 : 大光電気 (株)

助成： 東京都芸術文化発信事業助成

後援： (社) 日本建築家協会、(社) 日本建築学会、(社) 日本建築士会連合会

コミッショナー： 北山恒

制作協力： 横浜国立大学 Y-GSA/ 東京工業大学塚本研究室 / 筑波大学貝島研究室 / 日本女子大学

## ■本リリースに関するお問い合わせ

東京オペラシティ アートギャラリー 【展覧会担当】 野村・佐山【広報担当】 吉田

Tel : 03-5353-0756 / Fax : 03-5353-0776 / Email : ag-press@toccf.com